

教育研修会

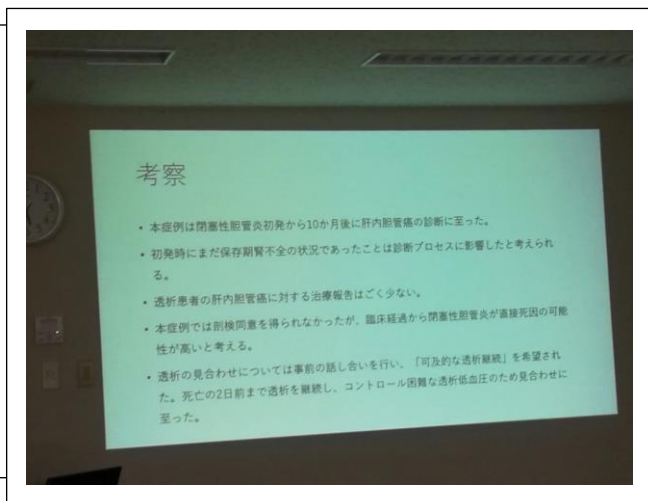
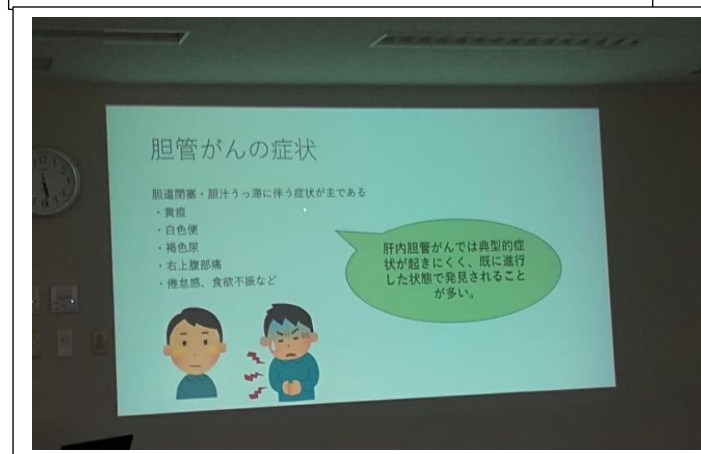
日時：R7年 9月30日(火) 17時より開始

場所：新王子病院 4F 会議室A

講師： 済生会八幡総合病院 腎センター部長 古野 郁太郎先生

テーマ：肝内胆管癌に伴う閉塞性胆管炎により死亡に至った維持透析患者の一例

講義中の様子です。



今回は肝内胆管癌の患者さんの症例でした。この患者は閉塞性胆管炎を発症し、ERCPにて肝門部胆管狭窄を認め、胆管ステントを留置されました。造影CTで肝S8/5付近に腫瘍影、PET-CTにて腫瘍内蓄積域を複数認め、肝内胆管癌に合致する所見にて、化学療法を開始されました。この患者は肝内胆管癌という癌で、早期発見が難しく、不良転帰となりやすい癌と言われています。透析患者の肝内胆管癌に対する治療報告は少なく、本症例でも閉塞性胆管炎初発から10か月後に肝内胆管癌の診断に至ったことでした。今回の症例で、透析患者での肝内胆管癌の治療や維持透析の難しさを学ぶことが出来ました。今回の講義内容も関心度が高く、多くのスタッフが参加されていました。